

## 最適金融政策における政策バッファ効果

荒井壮一

### 〈要旨〉

本稿の目的は、正のインフレ率目標を設定することで得られる流動性の罫に対する政策バッファの有効性を、ニューケインジアン型の最適金融政策モデルを用いて明らかにすることである。この目的のために、標準的なモデルに対して、(1)連続時間モデルとして分析すること、(2)中央銀行がインフレ率目標を独自に設定すること、(3)中央銀行が固有の割引率を持つこと、(4)民間のバックワード・ルッキングな期待を表す変数を導入すること、という4つの拡張を加える。本稿の分析から、ニューケインジアン型の最適金融政策モデルにおいても、ほとんどの場合において政策バッファ効果の有用性が確認できること、そして長期的な視野を持つ中央銀行の下では政策バッファ効果が十分に活用されることがわかった。